



# IYC2025ニュース第17号 **最終号**

2026年3月27日発行

編集  
・  
発行

2025国際協同組合年全国実行委員会 <https://www.japan.coop/iyc2025/>

事務局 一般社団法人 日本協同組合連携機構  
東京都新宿区市谷船河原町11番地 飯田橋レインボービル5階



## 【contents】

- ① IYC2025全国実行委員会最終会合報告
- ② 「協同のチカラ！ムービーコンテスト」の受賞団体が決定しました
- ③ IYC2025全国実行委員会デジタルアーカイブを開設しました
- ④ 「“協同”がよりよい世界を築く～連続シンポジウム・座談会」の開催報告書をアップしました
  - 第3回「環境と調和のとれた食料・農林水産業の確立」
  - 第7回「食料安全保障をめぐる状況と協同組合が果たすべき役割」
  - 第8回「地域の未来を共創する協同組合のジェンダー平等」
  - 第9回「暮らしを支える医療・福祉」
- ⑤ 全国各地の2025国際協同組合年の取り組み
- ⑥ (重要) IYC2025キービジュアル等の取り扱いについて
- ⑦ (重要) 『IYC2025ニュース』発行終了と今後のお問い合わせ先について

# ①IYC2025全国実行委員会最終会合が開催されました —協同組合の価値を社会に発信し、次の10年へ—



2025国際協同組合年全国実行委員会（事務局：日本協同組合連携機構（JCA））は、3月24日、家の光会館にて最終会合である第3回委員会を開催し、事業報告、決算（案）および「協同組合による若者・こどものための大きな応援団」の取り組みについての方針が承認されました。

委員会全体を通じて、次回の国際協同組合年である2035年を見据え、引き続き協同組合の社会的価値を高め、発信していくことが確認されました。

また、委員会の冒頭では「協同組合がよりよい世界を築く～チャレンジムービーコンテスト2025」の表彰式が行われました。

## 【開会あいさつ】

IYC2025全国実行委員会山野代表（JA全中前代表理事会長）は開会あいさつとして、まずこれまで本実行委員会の活動に参画いただいたすべての関係者の皆さまに対する謝意を述べました。そして2025国際協同組合年では、国内外で協同組合の価値発信に向けた取り組みが展開され、日本でもさまざまな取り組みが実施されたこと、あわせて今後10年ごとに国際協同組合年の開催が決定されたことを踏まえ、2025国際協同組合年の取り組みを振り返り、その成果と課題を共有するとともに、次の10年を見据えた新たな歩みにつなげていくための重要な機会であると述べました。



## 【議案審議】

IYC2025全国実行委員会比嘉幹事長は、第1号議案 事業報告として、実施した活動の実績と評価・課題を取りまとめたIYC2025全国実行委員会総括を報告し、続けて第2号議案 決算（案）として、収支報告書および損失処理案を提案しました。

IYC2025全国実行委員会総括はこちら

[https://www.japan.coop/wp/iyc2025\\_page/summary](https://www.japan.coop/wp/iyc2025_page/summary)



それを受けて木下春雄監事（一般社団法人家の光協会代表理事専務）より監査報告が行われ、第1号議案、第2号議案ともに承認されました。

事業報告に対して、一般社団法人 SDGs 市民社会ネットワークの新田英理子事務局長（大橋正明委員の代理として出席）は、2025年7月にSDGs市民社会ネットワーク、賀川事業団が協力してシンポジウムを開催し、SDGs市民社会ネットワークに参加しているNPO、NGOの皆さまにも案内できたことが大変有益であったと述べました。あわせて、動画コンテストの取り組みを今後も続けていくとしたら、協同組合と一緒に投稿したり、表彰するようなことができると、期待を示しました。



これに対し比嘉幹事長は、SDGsをテーマとしたシンポジウムにおいて、SDGs市民社会ネットワークに登壇いただいたことにより、SDGsに関心はあるものの協同組合については認知が高くない層にも視聴いただけたことの意義を確認するとともに、動画コンテストについては検討したいと回答しました。

また佐藤佳樹委員（全国大学生協連学生委員長）から、2025年において、大学生や高校生が協同組合の振興にどの程度関心を持っていたのか、また大学生協以外のネットワークにおける関わりの状況について質問がありました。



これに対しIYC2025全国実行委員会伊藤事務局長は、日本生協連が実施している75周年記念事業において、若い世代との交流が進んでいることが紹介しました。また大学での協同組合関連講座を通じて、大学生協には加入しているものの協同組合について十分に理解していない学生に対し、その意義を伝える重要性を実感したと述べました。

佐藤委員は、大学生協として今後も若者と協同組合をつなぐ役割を担っていきたいと述べました。

## 【「協同組合による若者・こどものための大きな応援団」についての委員からの提案】

村木厚子委員（社会福祉法人全国社会福祉協議会会長）と皆川芳嗣委員（一般社団法人日本農福連携協会会長理事）から、困難を抱える若者・こどもを支援する「協同組合による若者・こどものための大きな応援団」の取り組みについて提案が行われました。提案を受けてIYC2025全国実行委員会 比嘉幹事長より本取り組みをIYC2025記念事業として実施すること、本年6月を目途に実行委員会を立ち上げることが提案され、承認されました。



## 【閉会あいさつ】

新井ちとせIYC2025全国実行委員会副代表（日本生協連代表理事会長）は、閉会あいさつとして、まず本委員会でIYC2025の成果と今後に向けた課題について共有することができた述べました。そして次回の2035年の国際協同組合年に向けて、2025年の経験を通じて生まれたつながりを活かし、学びと実践と発信を大切に、この歩みを着実につなげていくことが使命であると述べました。最後にこれからも協同の力ですべての人々によりよい未来をともに築いていくことを呼びかけました。



## ②「協同のチカラ！ムービーコンテスト」の受賞団体が決定しました

「協同組合がよりよい世界を築く～チャレンジムービーコンテスト2025」（略称「協同のチカラ！ムービーコンテスト」）は、協同組合によるSDGsへの貢献や地域活動を動画で発信し、協同組合の社会的価値への理解と共感を広げることを目的として実施し、『IYC2025ニュース』第15号でお知らせしたとおりショート部門には69件、ロング部門には13件の応募がありました。

応募作品の中から、2025国際協同組合年全国実行委員会幹事会による選考およびSNS上の高評価（いいね！）数に基づき、以下の通り受賞作品を決定しました。

2026年3月24日（火）に開催された第3回2025国際協同組合年全国実行委員会において、以下の3団体の表彰が行われました。

### 【受賞作品】

#### 1. ロング動画部門

- IYC2025賞（協同組合のSDGsへの貢献活動の発信として特に優れた作品）  
やまゆり生活協同組合（神奈川県）  
「くらしから世界へ。協同の輪を広げよう～生協の組合員による国際協力～」



<https://youtu.be/OHQnL6H7SRc>

- いいね！賞（YouTubeの高評価（いいね！）数が最も多い作品）  
みなと医療生活協同組合（愛知県）「みなと医療生協ってイイネ♪」



<https://youtu.be/SPwKxNifPMU>

## 2.ショート動画部門

- いいね！賞 (Instagramいいね！数上位1～5作品)  
 姫路医療生活協同組合 共立病院 (兵庫県) \* 同一団体による5作品が受賞



「高校生の看護師体験受け入れ」

[https://www.instagram.com/reel/DJjZZAhY37/?utm\\_source=ig\\_embed&ig\\_rid=3a8ec ee7-b09d-48ea-abe2-9a72f5b07c94](https://www.instagram.com/reel/DJjZZAhY37/?utm_source=ig_embed&ig_rid=3a8ec ee7-b09d-48ea-abe2-9a72f5b07c94)



♡💬📌  
 「いいね！」1,143件  
 kyorituhospital  
 今年は計45名の看護師の仕事に興味を持つ高校生を受け入れました🌟  
 看護師の魅力が伝わるようにと準備を進めます。  
 実際に現場で働く看護師の姿を見て憧れは目標に変わります🥰  
 当院は医療従事者を志す高校生を応援しています。  
 #高校生看護師体験 #看護師 #看護師さん #姫路 #協同のチカラ  
 コメント21件をすべて見る

「新入看護師採用で安心の看護提供」  
 「誰もが着やすいユニフォームへ新調」  
 「オーダー可能な制服で働きやすさ担保」  
 「地域に開かれた病院マルシェ」



コンテスト表彰式での記念撮影

### ③IYC2025全国実行委員会デジタルアーカイブを開設しました

IYC2025全国実行委員会ウェブサイトに掲載してきた記事に加え、IYC2025全国実行委員会の総括および資料集をご覧いただけるデジタルアーカイブをJCAウェブサイト内に構築しました。ぜひご利用ください。

<https://www.japan.coop/iyc2025/>



#### 【主な内容】

- 2025国際協同組合年とは
- 2025国際協同組合年全国実行委員会総括
  - ◆ 本文
  - ◆ 資料集
- 全国実行委員会の取り組み
  - ◆ IYC2025キックオフイベント
  - ◆ 見て、聞いて、体験 協同組合フェスティバル
  - ◆ “協同”がよりよい世界を築く～連続シンポジウム・座談会
  - ◆ 協同のチカラ！ムービーコンテスト
  - ◆ 2025国際協同組合年 認定・後援
  - ◆ 2025国際協同組合年に賛同する個人・団体
- 全国の協同組合組織の取り組み
- 広報・学習資料
  - ◆ フライヤー・ポスター、各種タペストリー（サンプル）
  - ◆ パンフレット・リーフレット
  - ◆ 広報誌向けコラム
  - ◆ 動画学習資料
  - ◆ IYC2025ニュース
  - ◆ 協同組合学習資料（パンフレット・かるた）
- サイトマップ

## ④「“協同”がよりよい世界を築く～連続シンポジウム・座談会」

### ● 第3回「環境と調和のとれた食料・農林水産業の確立」の開催報告書をアップしました

2025年6月12日（水）に開催しました第3回「環境と調和のとれた食料・農林水産業の確立」座談会のシンポジウムの詳細な開催報告書を公開いたしました。登壇者資料や動画とあわせてご覧ください。

<https://www.japan.coop/wp/19838>



### ● 第7回「食料安全保障をめぐる状況と協同組合が果たすべき役割」の開催報告書をアップしました

2025年10月21日（火）に開催しました第7回「食料安全保障をめぐる状況と協同組合が果たすべき役割環境と調和のとれた食料・農林水産業の確立」シンポジウムの詳細な開催報告書を公開いたしました。登壇者資料や動画とあわせてご覧ください。

<https://www.japan.coop/wp/21103>



### ● 第8回「地域の未来を共創する協同組合のジェンダー平等」の開催報告書をアップしました

2025年12月3日（水）に開催しました第8回「地域の未来を共創する協同組合のジェンダー平等」シンポジウムの詳細な開催報告書を公開いたしました。登壇者資料や動画とあわせてご覧ください。

<https://www.japan.coop/wp/21904>



### ● 第9回「暮らしを支える医療・福祉」の開催報告書をアップしました

2025年12月3日（水）に開催しました第9回「暮らしを支える医療・福祉」シンポジウムの詳細な開催報告書を公開いたしました。登壇者資料や動画とあわせてご覧ください。

<https://www.japan.coop/wp/22151>



#### 【活用のお願い】

全9回のシンポジウム・座談会の動画、開催報告書、登壇者資料につきましては、それぞれの課題についての学習資料としてぜひご活用をお願いします。

なお、動画および登壇者資料は、2026年12月25日をもちまして公開を終了します。ご承知おきください。

<https://www.japan.coop/wp/18498>



## ⑤全国各地の2025国際協同組合年の取り組み

### ●国際協同組合年 栃木県実行委員会交流会を開催―「防災に係る共同宣言」を確認し、2026年以降の連携の軸を共有―

2026年2月3日（火）、ホテルニューイタヤ（宇都宮市）において、「国際協同組合年（IYC）栃木県実行委員会 交流会」が開催され、県内の協同組合関係者57名（27団体）が参加しました。本交流会は、IYCの取り組みを振り返るとともに、今後の協同組合間連携の方向性を共有することを目的に開催されたものです。

#### ■各団体によるIYCの取り組み報告

IYC栃木県実行委員会は、連携組織である「栃木県協同組合連絡会」を構成する12団体に1団体が加わり、計13団体によって結成されています。

当日は、実行委員会を構成する13団体から、それぞれの組織・事業概要や、IYCの趣旨を踏まえて各団体が進めてきた取り組み、さらに組織が抱える課題や成果等について報告が行われました。

主な取り組みとしては、役職員や組合員を対象とした講演会・学習会の開催による「学ぶ」活動、共通ロゴマークの活用や広報媒体を通じた「発信する」活動、さらに金融教育・食農教育・環境教育の出前授業、フードドライブや子ども食堂への支援など、各団体の特性を活かした地域貢献・次世代支援の取り組みが紹介されました。

各団体からの報告のあとは、JCA（日本協同組合連携機構）より横溝部長が登壇し、全国の県域におけるIYCの取り組み状況について報告が行われました。全国21の県域でIYC実行委員会が結成されていることに加え、それ以外の県域においても既存の枠組みを活用した多様な取り組みが進められていること、特に大学講座の新設が目立っていることなどが紹介されました。

#### ■防災に係る「共同宣言」を確認

内容はこちら<https://www.japan.coop/wp/wp-content/uploads/2026/02/a860dfa26ad0732f096942b53f773392.pdf>



本交流会の大きな成果の一つとして、「防災に係る共同宣言」の確認が行われました。

本宣言は、行政のみならず、地域に根ざした協同組合がそれぞれの役割を果たしながら相互に連携し、平時からの備えと災害時の支え合いを通じて、命と暮らしを守っていくことの重要性を共有するものです。

国際協同組合年（IYC）を契機に結集した県域13の協同組合が、これまで進めてきた学習・実践・発信の取り組みを土台に、今後も連携を深め、より豊かで暮らしやすい地域社会づくりに貢献していく決意が込められています。

本宣言は、2026年以降の協同組合間連携の拠り所として位置づけられ、各団体および13団体の連携による防災・減災の取り組みを継続的に推進していくことが確認されました。



主催者挨拶をするIYC2025栃木県実行委員会 代表(JA栃木中央会 代表理事会長) 国府田 厚志様



来賓挨拶をする JCA協同組合連携1部 部長 横溝 大介



「共同宣言」を掲げる実行委員会構成団体

## ● 山口県で第2回IYC2025山口県実行委員会を開催—新たに「やまぐち協同組合連携協議会」発足が決定—

2月10日、山口県において第2回IYC2025山口県実行委員会が開催され、2025年の国際協同組合年の取り組みを振り返るとともに、今後の協同組合間連携の強化に向けて、新たに「やまぐち協同組合連携協議会」を発足することが決定しました。

振り返りでは、スタンプラリーや学習会、各種イベントでのPR活動など、県内の協同組合が連携して実施してきた取り組みの成果と課題を共有しました。こうしたところ、協同組合の認知向上や職員同士の交流促進といった成果が確認される一方、県民へのさらなる周知や組合員参加の拡大が今後の課題としてあげられました。

当日は、日本協同組合連携機構（JCA）の青木連携推進マネージャーが、IYC2025の成果を2026年度以降につなげるため、県域での振り返りの実施や連携組織の強化、「学ぶ・発信する・実践する」活動の継続などを提起しました。

山口県では、子どもに協同組合の役割を分かりやすく伝える独自の広報資材を作成

し、協同組合を身近に感じてもらう取り組みも行っています。こうした活動は、JCAが全国ですすめている子ども向け教材づくりと方向性を同じくするもので、次世代に協同組合の価値を伝える取り組みとして注目されます。

このような議論をふまえ、IYC2025を契機に生まれた協同組合間のつながりを発展させるため、新たに「やまぐち協同組合連携協議会」を設立し、地域課題の解決や協同組合の価値発信に取り組んでいく方向性が示されました。

今後は、同協議会への参加団体の募集や規約の確定をすすめ、2026年度以降も県内の協同組合が連携し、組合員と地域社会の暮らしに貢献する取り組みを推進していく予定です。



#### 【関連リンク】

学習支援資材「みんなのまちの協同組合」と「協同組合かるた」

<https://www.japan.coop/wp/member/other/coopcarta-2025>



### ● 広島県協同組合連絡協議会が学習会を開催—持続可能な地域コミュニティに向けた協同組合の役割を考える—

2月20日、広島県協同組合連絡協議会（HJC）は、広島市内のJAビルにおいて学習会を開催しました。当日はHJCの構成団体および会員組織の役職員21名が参加し、地域社会における協同組合の役割や連携のあり方について学びを深めました。

本学習会は、HJCが取り組むIYC2025のテーマ「持続可能な地域コミュニティと平和」を踏まえ、協同組合の理念・価値や地域での実践事例を共有し、協同組合間連携による地域貢献の具体化を目的として開催されたものです。

講演では、藤山浩氏（一般社団法人持続可能な地域社会総合研究所 所長）が、「持

「持続可能な地域社会に向けた協同の仕組みづくり」をテーマに、自治組織・事業組織・地域拠点が広域で連携することの重要性を提起しました。

続くワークショップでは、地域社会における協同の再構築とネットワーク化に向けた意見交換が行われ、参加者は自組織の取り組みを振り返りながら、協同組合間連携の可能性を共有しました。



## ● 「市民の参加と協働を進めるコーディネーション研究集会2026」に協同組合分科会を設置—協同組合の連携事例から地域のささえあいの可能性を探る—

2月21日、愛知県の至学館大学において「市民の参加と協働を進めるコーディネーション研究集会2026」が開催されました。本研究集会は、日本ボランティアコーディネーター協会の主催により開催されたもので、同協会はIYC2025全国実行委員会の実行委員として、国際協同組合年に向けた取り組みにも参画しています。

この研究集会では、人口減少や担い手不足が進むなかで、地域における支え合いをどのように広げていくかをテーマに、18の分科会で多様な実践事例が共有されました。分科会「協同組合と連携した地域のささえあいのこれから」では、愛知県と北海道の協同組合が取り組む事例をもとに、19名の参加者が学び合いました。

分科会では、愛知県の南医療生活協同組合と豊明市が協働し、市民主体型生活サポート事業「おたがいさまセンターちゃっと」を展開している実践が報告されました。住民同士が日常の困りごとを支え合う仕組みを行政と協同組合が連携して構築し、コーディネート機能を担うことで、継続的な地域の支え合い活動を実現している点が示されました。

また、北海道からは、北海道生活協同組合連合会と株式会社FUJIが連携し、こども食堂支援や若者応援プロジェクトなどを通じて地域のささえあいの仕組みづくりをすすめている実践が紹介されました。協同組合と民間企業がそれぞれの強みを活かし、食料支援の物流機能などを担いながら、地域課題の解決に取り組む姿が共有されました。

当日は、日本協同組合連携機構（JCA）が制作した学習支援資材「みんなのまちの協同組合」を用いて、協同組合の基本や役割を分かりやすく説明するとともに、社会福祉協議会からも地域福祉の取り組みについて紹介され、協同組合と社協とが連携する意義

を発信しました。

本分科会では、JCAの青木寛連携推進マネージャーがファシリテーターを務め、事例報告を踏まえながら、「どのようにつながりが生まれたのか」「それぞれの得意技をどう活かしているのか」「異なるセクターがどうしたら連携できるのか」といった視点で議論を行いました。参加者同士の活発な意見交換では、協同組合の連携による地域づくりの可能性がいくつも生まれました。

地域のささえあいは、単独の組織だけで担いきれるものではありません。本研究集会は、協同組合が市民や自治体、企業、NPO等と連携しながらコーディネーション機能を発揮することの重要性と可能性を改めて確認する機会となりました。



「みんなのまちの協同組合」で協同組合のことを説明する実行委員



社会福祉協議会(社協)について説明する実行委員



分科会登壇者の皆さま



事例報告の様子(愛知県)



事例報告の様子(北海道)

## ●香川県で「2025国際協同組合年香川県実行委員会」を開催 —香川大学・香川県ユニセフ協会などとの連携を拡充し新体制へ—

3月12日、香川県JAビルにおいて「第2回2025国際協同組合年香川県実行委員会」が開催され、県内15の協同組合および関係団体が参加しました。同委員会では、2025年の国際協同組合年（IYC2025）にあわせて実施してきた取り組みを振り返るとともに、実行委員会の解散と今後の連携のあり方について協議しました。

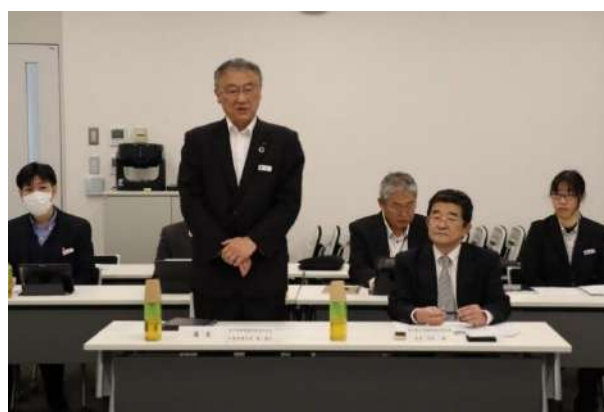
振り返りでは、2025年の国際協同組合年を契機に、協同組合の価値や役割を広く県民に伝えることを目的として実行委員会を設置し、2025年2月から1年間にわたりさまざまな取り組みを進めてきたことが共有されました。

具体的には、協同組合の連携による社会貢献活動として、使用済み切手や外国コインの回収による国際支援、女木島での海岸清掃活動、協同組合の理念やSDGsを学ぶ学習交流会、防災訓練などの活動が振り返られました。特に成果として、地域美化活動ではSNSを活用した情報発信により、延べ約6,000人が参加するなど協同組合の活動が広く発信されたことが報告されました。

また、四国学院大学や徳島文理大学での地元農水産物のPRや香川大学での協同組合に関する講義、生協まつりやJAの地域イベントなど、学生や地域住民との交流を通じて、協同組合の理解を広げる取り組みが行われたことも確認されました。

IYC2025を契機として「かがわ協同組合連絡協議会」には、新たに香川大学、香川県ユニセフ協会、共栄火災海上保険株式会社四国支店高松支社、香川県中小企業団体中央会の4団体が加わることとなり、構成団体の拡充が図られました。

実行委員会の解散後の今後の連携のあり方として、同連絡協議会では、協同組合への理解促進、団体間の連携強化、地域課題への対応、そしてSDGsの実践などを柱に、協同組合間連携の取り組みを引き続き進めていくことが確認されました。



## ●愛媛県で「2025国際協同組合年愛媛県実行委員会」を開催 —県内協同組合が連携し、多彩な事業を実施—

3月12日、JA愛媛ビルにおいて「第2回2025国際協同組合年愛媛県実行委員会」が開催され、県内9つの協同組合が参加しました。本委員会では、国際協同組合年（IYC2025）におけるこれまでの取り組みを振り返るとともに、今後の連携のあり方に

ついて協議が行われました。

振り返りでは、「国際協同組合デー記念行動」として実施した海岸清掃や海の学習会をはじめ、愛媛大学における全8回の協同組合提供講座、協同組合役職員を対象とした学習セミナーや研修会、北海道の連携組織とのオンライン交流集会などが報告されました。これらの取り組みにより、IYC2025を通じて地域や世代を越えた交流と学びの機会が大きく広がったことが確認されました。また、新聞広告の掲載やポスター制作など、広報活動の展開についても共有されました。

こうした成果を踏まえ、IYC2025で制定した愛媛県独自のテーマ「地域とともに…広がれ！つながれ！愛媛の協同×SDGs」を、2035年の国際協同組合年に向けて継続して掲げていくことが宣言されました。



国際協同組合デー記念行動として実施した海岸清掃の様子

## ●徳島県で協同組合連携の県域組織が発足へ —未設置県からの脱却、地域連携の新たな一歩—

徳島県では、2026年4月20日付で協同組合間の連携を推進する県域組織「徳島県協同組合連絡協議会」が発足する予定であり、現在その準備がすすめられています。

これまでも、JA・生協・森林組合・漁協・ワーカーズコープなどが協同組合デーの開催をはじめとする様々な取り組みを通じて交流を重ねてきましたが、県域での恒常的な連携組織は未設置の状況にありました。

こうした中、2025年の国際協同組合年（IYC2025）を契機に、組織間の連携をより一層強化する必要性が共有されました。その流れを受け、県域組織の設立に向けた具体的な検討が進められてきました。

今回発足する協議会は、「協同組合等の連携を通じて、協同組合運動の周知・促進に取り組み、より良い地域社会づくりに寄与する」ことを目的とし、県内の協同組合および関係団体で構成されます。協議会では、行動指針として「①信頼関係の醸成②自主性・独自性の尊重③共感・知見の共有と共創④地域社会への貢献」を掲げ、協同組合間連携の活動を推進します。さらに、各組織が持つ強みや経験を活かしながら、共通課題の解決と地域の持続的発展を目指します。

今後の主な活動として、定例会での情報共有・意見交換、協同組合デーイベントの実

施、地域貢献活動などが計画されています。協議会の発足式は、2026年4月20日に徳島市内で開催予定です。



県内の協同組合が参加した「賀川豊彦ゆうあいフェスタ」の様子

## ⑥(重要) IYC2025キービジュアル等の取り扱いについて

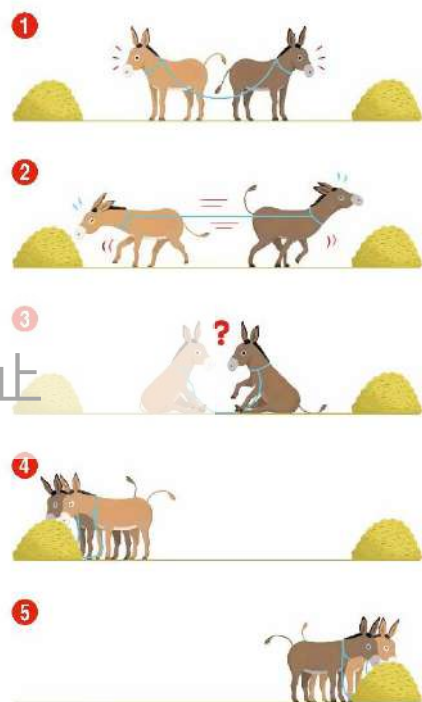
IYC2025のポスターやフライヤー、ノベルティグッズなどで使用してきたIYC2025キービジュアルおよび各種協同組合紹介タペストリーなどに使用してきたロバ(ラバ)のイラストは、権利関係により2026年3月をもって使用期限を迎えます。広報物への掲載やノベルティグッズ作成などへの転用は行わないようお願いいたします。

なお、IYC2025全国実行委員会が作成したポスターやフライヤー、ノベルティグッズ等につきましては、そのまま保管・掲示が可能です(破棄の必要はありません)。



IYC2025キービジュアル

転載禁止



ロバ(ラバ)のイラスト

## ⑦(重要)『IYC2025ニュース』発行終了と今後のお問い合わせ先について

『IYC2025ニュース』の発行は本号をもちまして終了します。2024年7月から1年9カ月にわたり閲覧いただきありがとうございました。

JCAでは『IYC2025ニュース』を引き継ぎ、協同組合に関わるトピックを会員にお知らせする『JCAニュース（仮称）』を新たに発行します。年4回程度の発行を予定していますので、『IYC2025ニュース』同様、引き続きご活用をお願いします。

なお、IYC2025に関する4月以降のお問い合わせは、以下までお願いします。

● お問い合わせフォーム：[JCA | お問い合わせ](#)

● 電話：03-6280-7200

\* メールアドレス：[iyc2025@japan.coop](mailto:iyc2025@japan.coop)は使用できなくなります  
のでご注意ください。

